

原野のもり友の会 「弟子屈町」



国立公園の町で森林再生

私たちは、地域環境保全タイプと教育研修活動タイプの交付枠を利用して最初の3カ年計画を終え、4年目の活動に入りました。

弟子屈町は町域の60%が阿寒・摩周国立公園のエリアです。火山と、噴火でできた湖、そのまわりを囲む森といった自然環境を保護しながら、いろんなお客さんに利用していただくという、エコツーリズムを推進しています。私自身も自然ガイドや木育マイスターとして活動しています。

友の会の活動地は、弟子屈原野の牧草地に囲まれたカラマツの私有林です。地主は大阪の社会福祉法人で、かつてフリースクールなどのNPO活動が行なわれていたものの頓挫し、残されたログハウスを今、私たちが拠点として活用しています。

最初に、活動推進費を活用して現況調査を行ないました。カラマツ人工林なので単調な森に違いないと想像していましたが、意外に広葉樹も混じって生えていることが分かりました。倒木・枯損木・かかり木を撤去してササを刈り、安全に散策したり学習したりできる森にしよう、という目標を立てました。

1年目は森林組合に委託してササを刈ってもらいました。ササを刈り取ると、かつて間伐の際に放置されたらしい丸太や枝がごろごろ出てきました。丸太は玉切りしてリヤカーや手作業で運び出しました。

続いて散策路を付設しました。秋に色づくカエデ類や春のサクラなど、季節を楽しめる散策路を目指しました。

かかり木の撤去などは人力では手に負えないと判断し、プロに委託しました。周囲の広葉樹は傷つけずに育てたいので、林業車両は入れずに馬搬を利用しました。いろんな人にこの光景を見てもらいたくて、安全に気を配りながら見学会も行ないました。

エコツーリズムの土台づくりに貢献

弟子屈町はエコツーリズムを推進しています。人材育成が急務で、そのためには、町の子どもたちが地域の自然や生態系を理解することが不可欠だと思います。しかし実際には、子どもたちが自然とふれあう場は多くありません。町民アンケートでも、子育て世代から「気軽に遊べる場所がない」という声が多く寄せられています。

そこで友の会では、木育や森林環境教育プログラムの場として、「原野のもりの木育ひろば」を開設することにしました。いきなり「国立公園の自然を知ろう」といった学習会を開くのはハードルが高すぎます。まずは「自然の中で遊ぶのは楽しい」と思える場を提供し、「エコツーリズムによる地域活性化」の土台作りを目指して活動しているところです。

安全を確保した上で、先ほどの玉切りした丸太の搬出などの作業も、遊びの一環として子どもたちと一緒にこなしています。運び出した木材は薪にして焚き火にくべます。子どもでも扱える手動の薪割り機が活躍しています。

11月には大人向けのプログラムとして、アロマセラピストのメンバーを講師役に、森で集めたカラマツの葉を煮詰めて精油を取る、という体験活動をしました。香りの良い精油は保湿クリームに加えるなどして使います。

初年度はササ刈りをしてもらうとまた生えてきて難儀しましたが、3年を経てかなりメンテナンスが楽になってきたと実感しています。ササを刈った後の林床にバイケイソウ、オオバユリ、オオバナノエンレイソウなどユリ科植物が芽吹き始め、多様な植物相が戻ってきた印象があります。

私たちは、森林と人をつなぐのが森林環境教育だと思って活動してきましたが、それ以上に、森に集まってきた人と人、家族と家族をつなぐ場として、この森をすくく活用できていると感じています。

こうした活動は、継続することが重要だと思っています。森林に関わる人材を増やして、より活発な展開を目指します。



報告者

萩原 寛暢さん

